

【背景】

たばこ対策が全国で進められているが、地域によって温度差がある。また、効果的な戦術・手段が十分には揃っておらず、総合的な対策を行う素地が整っているとは言い難い。

【目的】

効果的なたばこ対策を進めるため、受動喫煙防止、喫煙防止、禁煙支援の具体的なツール等を作成し、事業・活動を実践し、地域における総合的な対策のあり方を模索する。

【方法】

1. 受動喫煙防止

1) 10メートルルール

屋内禁煙後に課題となる屋外での受動喫煙防止について、出入口から喫煙所や灰皿を設置する場合に一定距離をおく「10メートルルール」を考案し、普及を図った。

2) むえん君・けむたい子さんカード

公共施設等での禁煙を推奨するため、「むえん君」「けむたい子さん」をキャラクターにしたメッセージカードを作成した。



むえん君カード



10メートルルールのロゴ

2. 喫煙防止

1) 教材の作成

小中高生等を対象にした教材「たばこに関する8つの真実」を作成・印刷した。

2) ポスターの作成

WHO等が作成したたばこの健康影響につい

てのポスターを翻訳し、日本語版の作成・印刷を行った。

3) 喫煙防止健康教育の実施

県内の4つの小中学校で、作成した教材やポスター等を使用した授業を実施し、前後において調査票を用いて効果を評価した。

3. 禁煙支援

周南市の協力を得て、特定健診・保健指導における禁煙支援マニュアルを作成した。

4. シンポジウム等の開催

専門家向けの研修会、市民公開シンポジウムを開催した。

【結果】

10メートルルールは宇部市の取組として取り入れられるとともに、「山口県たばこ対策ガイドライン（改定）」に盛り込まれる予定である。小中学生を対象にした健康教育では、その前後において知識や意識の向上が認められた。使用した健康教育の教材は電子ファイルの配布等を通じて普及を図った。一連の活動はメディアに数回取り上げられた。成功要因として、国の受動喫煙防止施策との同調、行政等の関係者・団体の理解と巻き込み、他研究者との情報交換、新しいアイデアの創造、実施のための予算獲得、メディアの活用などが挙げられた。

【結論】

たばこ対策の新しい戦術を提案し、総合的なたばこ対策につなげることができた。専門家の本気・熱意をもとに、関係者を巻き込み、アイデアを出し合い、複数の戦術を組み合わせ、メディアを活用し、戦略的に実践することが重要であると考えられた。

【連絡先】福田吉治 fukuday@yamaguchi-u.ac.jp

【参加をお願いしたい方】たばこ対策に関心のある方